

# 簡易水防工法の例

簡易水防工法は、あくまでも小規模な水害で、水深の浅い初期の段階で行うものです。

※危険を感じる前に早めに避難してください。

## ●簡易水のうとダンボール箱による工法

土のうや水のう(45リットル程度のゴミ袋を二重にして、中に半分程の水を入れたもの)をダンボール箱に入れて、レジャーシートで巻き込み使用します。ダンボール箱の代わりに、プランターや10~20リットルポリタンクも使用できます。



## ●臨時の止水板による工法

長めの板と土のうを使用します。



※必要なものは、事前に準備しておきましょう。

# 特に注意が必要な場所

●地下室 大雨の時は地下室は危険です。浸水の危険があるときは、早めに避難しましょう。



地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。



浸水すると電灯が消えます。エレベーターは使用できません。



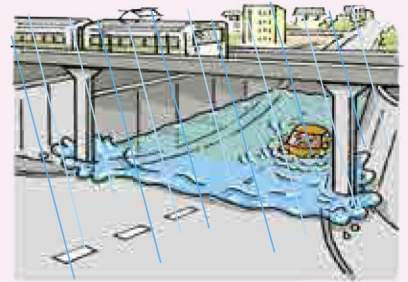
地下からは外の様子がわかりません。



水圧でドアは開きません。

## ●アンダーパス

鉄道の下など、路面が低くなっている部分は、水がたまるおそれがあります。大雨のときには十分注意してください。



## ●河川

こんなときは河川に近づかないようにしましょう。

- 河川の水が増えてきたとき
- 雨が降ってきたとき
- 急に空が暗くなってきたとき
- 雷が聞こえたとき



# 地下鉄はどうなるの？

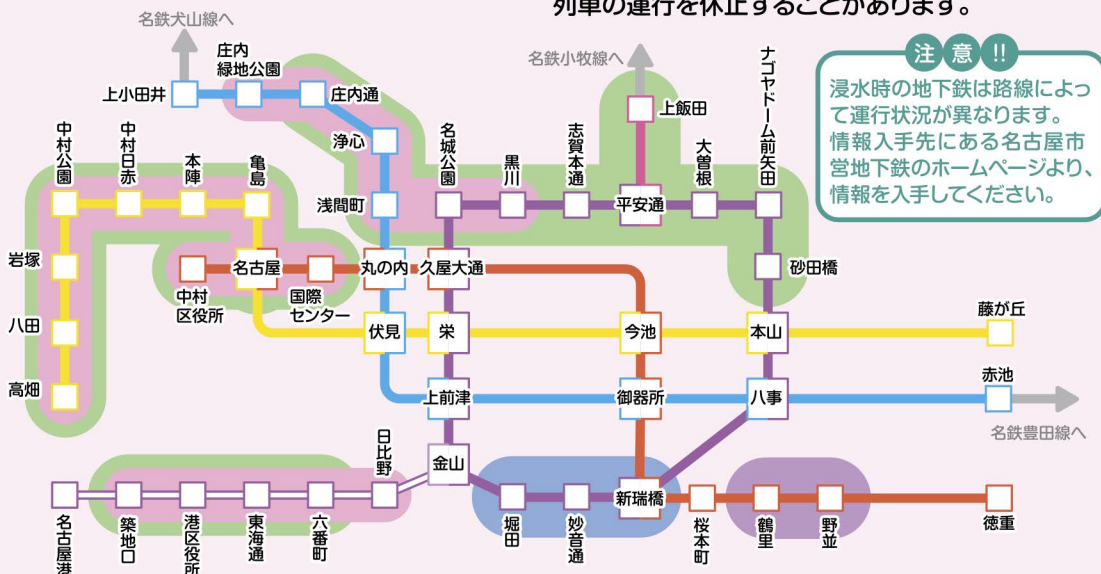
地下鉄駅では、出入口に止水板や防潮扉を設置して浸水を防ぎます。なお、止水板を越えて駅構内や、さらにはトンネル内に浸水した場合、一部の区間で列車の運行を休止することがあります。

## 地下鉄路線名称

- 東山線
- 鶴舞線
- 桜通線
- 上飯田線
- 名城線
- 名港線

## 河川の堤防が決壊した際に浸水する範囲

- 庄内川の浸水範囲
- 矢田川の浸水範囲
- 山崎川の浸水範囲
- 天白川の浸水範囲



## 注意 !!

浸水時の地下鉄は路線によって運行状況異なります。情報入手先にある名古屋市営地下鉄のホームページより、情報を入手してください。